

令和元年（2019年）6月21日

れきみん

資料館だより

No. III-21

相生市立歴史民俗資料館

〈資料紹介15〉 **新発見！** 相生湾を見下ろす位置に築かれた **前方後円墳**

昨年10月12日、国土地理院がホームページ上に公開している傾斜量図の観察による前方後円墳の確認作業を進めていた藤原好二氏（倉敷埋蔵文化財センター・中国四国前方後円墳研究会会員）から、IHI相生事業所敷地内の山上に墳長40mクラスの前方後円墳が存在する可能性がある旨の連絡をいただきました（藤原2018）。

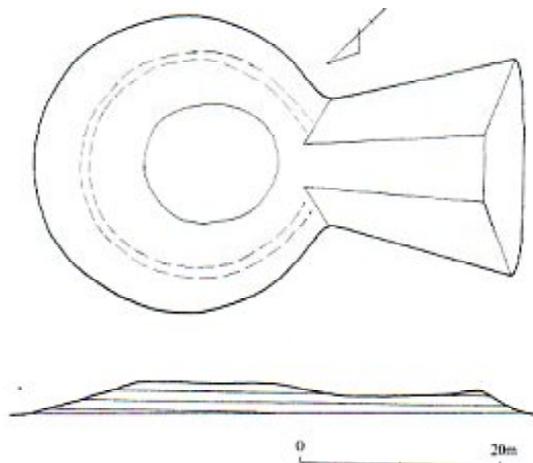
直ちに現地踏査を行うとともに、年明けに繁茂する草木を一部伐採した結果、保存状態が極めて良好な前方後円墳であることが判明し、**甲崎古墳**と命名しました。

1月に巻尺による計測を行ったうえで、2月～3月に亀田修一氏（岡山理科大学）、澤田秀実氏（くらしき作陽大学・中国四国前方後円墳研究会事務局）、藤原氏ら研究者に実見していただき、教示・助言を得ました。

本年度中に精密な測量図を作成する予定にしていますが、以下、現時点での概要と知見を紹介します。



甲崎古墳（前方部から後部を望む） 2月1日撮影



甲崎古墳模式図（下は断面図）

1 古墳の概要

- (1) 所在：相生市相生字甲崎（IHI相生事業所構内、^{うこうえん}雨香園の南西約200mの地点）
- (2) 立地：南西から北東に延びる尾根の標高約75mの地点に、後円部を北東に向けて築かれている。
- (3) 外表：後円部2段築成（前方部も2段築成の可能性はあるが確かでない）、周溝は未確認
葺石^{ふきいし}は部分的に存在する可能性が高い（一部角礫散乱）、埴輪は未確認（有無は不明）

(4) 墳丘規模

- 墳長：約 49m
- 後円部径：約 29m
- 後円部墳頂平坦部径：12m ～ 13m、後円部高：3.4m (主軸部) ～ 3.6m (北西側)
- 前方部長：約 19m
- 前方部先端部幅：約 22m、前方部高：約 2.2m (主軸部)
- くびれ部幅：約 13m、くびれ部高：約 1.0m (南東側)・約 1.4m (北西側)
- 後円部墳頂を基準とした比高：くびれ部頂－ 1.0m、前方部頂－ 0.4m

(5) 築造時期：古墳時代前期 (4 世紀) カ

2 発見の意義

(1) 保存状態が極めて良好な前方後円墳

(2) 市域 4 例目の前方後円墳

- ① 塚森古墳 [那波野]：墳長約 60m (復元)、帆立貝形、馬蹄形周濠、円筒埴輪、5 世紀末
- ② 大避山 1 号墳 [若狭町下土]：墳長約 57m、竪穴式石槨、土師器、3 世紀中葉
- ③ 甲崎古墳 [相生]：墳長約 49m、4 世紀カ
- ④ 佐方 1 号墳 [佐方]：墳長約 33m ?、円筒埴輪、4 世紀後半

(3) 海浜型の前方後円墳

播磨灘－相生湾－那波浦 (港)・佐方に至る海上交通の要衝 (相生湾がくびれて最も狭くなる海域) を見下ろす地点に立地する。被葬者は、播磨灘から相生湾に至る交通・流通を掌握し、ヤマト王権から管理を認められた人物カ。

3 今後の課題

(1) 精密な測量図を作成して畿内地域の大型前方後円墳と比較検討することにより、類型 (築造規格の共有関係) を明らかにする。現状では行燈山類型あるいは五社神類型と思われる (奈良県行燈山古墳あるいは五社神古墳と相似形の可能性がある) が、定かでない (澤田氏教示、澤田 2017)。

(2) (1) の検討および播磨地域の前方後円墳との比較検討により、編年的位置や被葬者像を明らかにする。

(3) 保存と公開の方向性を定め、見学の機会を設ける。

* 当古墳は I H I 相生事業所構内に所在するため、特別な場合を除いて立ち入ることはできません。

〈参考文献〉

澤田秀実 2017 『前方後円墳秩序の成立と展開』 (同成社)

藤原好二 2018 「傾斜量図による前方後円墳の確認」『中国四国前方後円墳研究会』

* I H I 相生事業所総務部の宮艸真木氏 (相生市議会議員) には、現地踏査や伐採許可を得るのに多大なご支援をたまわるとともに、何度も現地に同行していただきました。また、中村信義氏 (兵庫県文化財保護指導委員) には、墳丘の計測にご協力をいただきました。さらに、既述のように、情報を提供いただいた藤原好二氏をはじめ亀田修一氏・澤田秀実氏から有益なご教示をたまわりました。記して感謝申し上げます。

(中濱久喜)